

松陵小学校における野鳥観察会

10月25日（火）、酒田市立松陵小学校の四年生を対象とした「野鳥観察会」を酒田市光ヶ丘の「万里の松原（さえずりの森）」で実施しました。

この日の酒田は、比較的温かではあったものの朝方から小雨が降る天気でした。開始時間前になると四年生の皆さんは、雨合羽及び長靴履きの万全の装備で、学校の正面玄関に集合し、四年生の二クラス47名、先生2名、朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター3名、講師1名の総勢53名で観察会を始めました。

まず、今日の講師であるイヌワシの森倶楽部の高橋知美氏より、双眼鏡の使い方について時間をかけて丁寧な説明・指導がありました。このお陰で、参加者全員が双眼鏡を使いこなせるようになりました。

その後、小学校に隣接する「万里の松原（さえずり森）」に向かいました。さえずりの森に入るといきなり樹高30mのクロマツの上に大きな巣を発見しました。みんなは「何の巣」と興味津々です。高橋講師より早速、大型の望遠鏡を設置してもらい、順番に望遠鏡をのぞき込んでいました。この巣は、おそらく古い「カラス」のものらしいとのこと。さえずりの森を奥に進んでいくと何やら小鳥のさえずりらしき鳴き声が林内に響いてきました。みんなはまたも興奮気味で、音を立ててしまったので、小鳥が姿を隠してしまいがっかりです。しかし、あきらめずに静かに待つこと数分、再び、野鳥が姿を現しました。シジュウカラやコゲラを観察できた幸運な生徒もいました。

次に、野外での野鳥観察を終了し、学校内の休憩室で勉強会を行いました。野鳥がなぜクロマツ林等集まるのか、食物連鎖の仕組み、野鳥の不思議、庄内海岸林（クロマツ林）を守るためのポイントなどについて、高橋講師からパワーポイントを使ってわかりやすく説明をしていただきました。生徒さんたちからは、活発に意見の発表があり、また、クロマツ林のことをかなり知っていることには逆に驚かされました。四年生でこれだけクロマツのことに詳しいのは、小さい頃から庄内海岸林のことについて聞いたり、学んだりしている地域での取り組みのたまものでないかと思いました。

あまりにもみんなからの意見が活発に出たため、予定していた時間もあっという間に経ってしまいました。そして、事前に準備していた野鳥についての質問は、高橋講師の宿題となってしまいました。

このように、四年生の皆さんが「万里の松原」や学校周辺の自然の豊かさに改めて感じ、学んでもらったことを信じ、観察会は終了しました。

